



Title	足もとの国際化と大学 : グローバル化時代における 社会学連携の成果と課題
Author(s)	島藺, 洋介
Citation	GLOCOLブックレット. 2016, 18, p. 70-71
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55573
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

3-1

足もとの国際化と大学

グローバル化時代における社会学連携の成果と課題

島蘭洋介 大阪大学グローバルコラボレーションセンター講師

大学組織としてのGLOCOLの特徴の一つとして、研究、教育とともに実践支援を行ってきたことが挙げられます。今日、大学の「社会学連携」の重要性がとくに指摘されていますが、こうした活動に先駆的に取り組んできたのがGLOCOLであると言えます。とくに、GLOCOLが力を入れてきた中に、「足もとの国際化」に関わる研究、教育とともに実践支援活動があります。

グローバル化が進む今日の社会のなかで、日本国内にもますます多様なルーツをもつ人々が暮らすようになっています。しかし、日本の法や教育、その他の社会制度は、こうした状況に充分に対応できているとは言えません。さまざまなルーツをもち、言語、文化、社会的背景が異なる人々が共生できるような社会を実現するための課題は山積しています。

GLOCOLのグローバル共生グループは、こうした「足もとの国際化」にかかわる日本社会の課題に向き合い、行政やNPOと連携しながら活動してきました。その中で、いかに大学固有の機能を生かした社会貢献をするのか、いかに社会貢献活動を大学における研究だけではなく、教育活動とも結びつけることができるのかを問い続けながら、手探りでさまざまな事業を行ってきました。

GLOCOLが閉じられるにあたって、こうしたグローバル共生グループの活動のこれまでの成果と残された課題について検討するために、2015年11月21日に「足もとの国際化と大学 — グローバル化時代における社会学連携の成果と課題」(場所:大阪大学ステューデント・コモンズ、カルチェ・ミュルチラング)を開催しました。GLOCOL連続セミナー「大学とグローバル化」のシリーズ第2回目として開催された同セミナーには、吹田市国際交流協会の橋口裕子さんとミックスルーツ・ジャパン代表須本エドワードさんをお招きし、GLOCOL教員と対談していただきました。また、GLOCOLと連携・協力していただいたその他の行政機関やNPOの方々も会場にお招きし、

ディスカッションに参加していただきました。

本章は、同セミナーの記録です。本章が、グローバル化時代に大学が社会学連携にどのように取り組んでいくべきかについて考えるための一助となれば幸いです。